

建設分野における外国人技術者の受入等について

国土交通省 不動産・建設経済局
国際市場課

令和7年2月20日

- 1, 外国人技術者受入れに対する国交省の取組
- 2, ベトナム合同就職説明会実施概要
- 3, ベトナムの学生の傾向について
- 4, ベトナム人技術者の日本語学習について
- 5, その他

参考資料 学生及び大学関係者アンケート(抜粋)

1. 外国人技術者受入れに対する国交省の取組

建設業界の現状（令和5年度国土交通省調査より）

技術者の基本的な就労状況の実態

主な課題・特徴	若年層の不足（15～29歳の比率が12.9%）
	建設技術者の高齢化（55歳以上の比率が34.4%）
	長い労働時間（建設業：1,986h、全産業：1,718h）
	他産業より人手不足感がある（有効求人倍率5.55 全産業平均1.11）

技術者の担い手不足における将来的な見通し

将来予測	建設投資額は、2035年にかけて横ばい～微増※1（63.6兆円～67.7兆円の予測）
	建設技術者は2030年に約4.5万人不足※2

※1 RICE「建築経済レポートNo.73 建設投資の中長期予測（2035年までの見通し）」
 ※2 ヒューマンリソシア「建設技術者・技能工の2030年の未来予測（2023年版）」

外国人技術者受入れ支援に係る国土交通省の取組（令和6年度事業）

認知

- ・外国人技術者採用ハンドブックの作成
おもな内容は以下の通り
- 1 外国人技術者の受入に向けて
- 2 外国人技術者の採用・活躍に向けたステップ
- 3 外国人建設技術者の受入れ・活躍事例
- 4 参考情報（在留資格や支援サービス情報等）
※R7年4月配布開始予定

採用

- ・現地合同就職説明会の開催
インドネシア
インドネシア大学・ジャカルタ市内会場
参加企業：3社 参加学生：計約250名
- ベトナム
ホーチミン市工科大学・ハノイ土木大学
参加企業：12社 参加学生：計約180名
- ・国内オンライン合同就職説明会の開催
参加企業：15者 参加学生：計約300名

定着

- ・定着セミナーの開催
外国人技術者の中長期的な定着のために必要な教育の取組、職場環境改善に係る取組等について最新情報セミナーの開催（オンライン）
R7年3月開催
- 【調査】
・新たな送出し国候補についての調査
・日本語教育の実態等調査及び施策検討

2. ベトナム合同就職説明会実施概要

令和6年11月30日（土）ホーチミン市工科大学

セレモニー会場



【主要学部学科】

コンピューターサイエンス工学部、科学工学部、機械工学部、電気・電子工学部、土木工学部、応用科学部、工業管理学部、環境資源工学部、地質・石油工学部、交通工学部、材料工学部

【日本との関係】

一部学科を専攻する学生向け日本語コースあり
(建設関係以外)

学校概要

参加者

参加企業数 12社
参加学生数 79名

ブースでの説明会



①セレモニー開催

- 学生支援センター長が登壇し、開会セレモニーを実施

②ブースでの説明会

- 事前申込者+当日参加者が自由にブースに来訪し、企業説明に参加

③個別面談（一人30分）

- エントリーした求職者が希望する企業に面談をリクエスト
- 企業が求職者情報を確認・マッチングを行い、30分程度の面談を実施

当日スケジュール

2. ベトナム合同就職説明会実施概要

令和6年12月2日（月）ハノイ土木大学

学校概要

【主要学部学科】

建設工学科、高速道路・橋梁学科、建築学科、水利学科、環境工学科、建築材料学科、構造工学科、情報工学科、建設経済学科

【日本との関係】

熊本大学、埼玉大学が交流関係にある

参加者

参加企業数 12社
参加学生数 97名

当日 スケジュール

① セレモニー開催

- 副学長が登壇し開会セレモニーを実施

② ブースでの説明会

- 事前申込者＋当日参加者が自由にブースに来訪し、企業説明に参加

③ 個別面談（一人30分）

- エントリーした求職者が希望する企業に面談をリクエスト
- 企業が求職者情報を確認・マッチングを行い、30分程度の面談を実施

セレモニー会場



ブースでの説明会



国外での就職について

学校関係者からの聞き取りによると、ベトナム国内で就職を希望する学生が多いということであったが、合同就職説明会参加学生については、70%前後が国外での就職を希望しているよう。日本を希望する率も高い。

就職先で重視すること

「スキル取得」を最も重視し、その次に「働き方」「文化」「給与」と続く。就職の際に期待する月収のラインは「24万円（40,000,000ドン）」

日本企業についての印象

日本は技術水準が高く給料がよいという印象。日本文化にも関心があるが、個別の日本の建設企業についての認知度はあまり高くない

日本語学習

日本語に関心があるが、実際に在学中に日本語を学ぶ学生は少ない。外国語では英語が重視されている。

4, ベトナム人技術者の日本語学習について

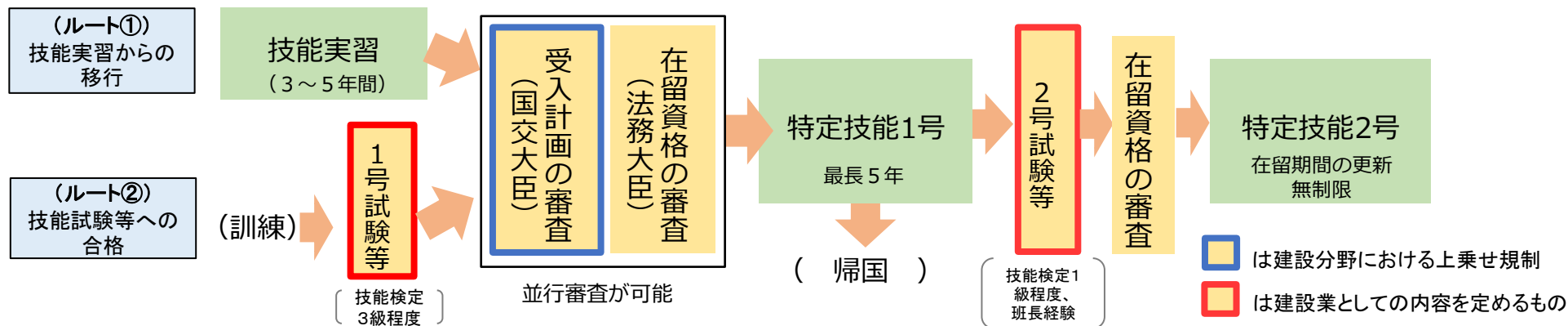
設問		回答内容
基本情報	企業情報	<ul style="list-style-type: none"> 九州地方所在の総合建設業（土木・建築） 従業員数100名超 ベトナムに現地法人を設立し、自社で3年間経験を積んだベトナム人技術者を現地法人の代表者として起用。 外国人技術者の採用実績は24名。うちベトナム人16名 日本語能力要件N3以上（採用時は不問。入社まえにN3取得必須）
	外国人情報	<ul style="list-style-type: none"> 34歳 入社8年目のベトナム人技術者 ハノイ建設大学卒業。5年課程の4年時に当該企業に内定し1年日本語学校で学習。 入社時の日本語能力はN3。現在はN2 入社4年目で1級施工管理技士に合格 土木・建築双方の資格あり
学習内容 ・就職活動	日本で働くきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> 当初はベトナム国内で働くつもりだったが、大学で開催された民間団体主催の合同就職説明会に参加し面接を受けたことで日本で働きたいと思うようになった。
	日本語学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 日本語学校では「みんなの日本語」という教材で勉強をしていた。 就職説明会の実施していた団体は日本語学校も経営しており、費用はとても安く一ヶ月あたり日本円の感覚で5000円くらいだった。 また、「耳から覚える日本語」という音声ファイルを携帯にダウンロードし、通学時は寝る前に聞いていた。とても良い教材だと思う。 N3に合格していたが、入社して学校と実際の現場は違うと思った。最初は10%も聞き取れず不自由がなくなるまでに2～3年かかったと思う 建設用語は現場でよく使うし、世界共有の言葉も多いので覚えやすかったが、道具の名前の日本語や安全用語は入社前に勉強しておけばよかったと思う。

5 その他 特定技能制度と組み合わせた受入れ

○建設分野における「特定技能1号」の在留資格の取得方法

以下の2ルートのうちいずれかにより、「特定技能1号」の在留資格を得ることが可能。

- ①技能実習2号を良好に修了(又は技能実習3号を修了)
- ②以下の試験の両方に合格
 - (a)技能評価試験: 「技能検定3級」又は「建設分野特定技能1号評価試験」
 - (b)日本語試験 : 「国際交流基金日本語基礎テスト」又は「日本語能力試験(N4以上)」



○建設分野における上乗せ規制の概要

- 1) 業種横断の基準に加え、建設分野の特性を踏まえて国土交通大臣が定める特定技能所属機関(受入企業)の基準を設定
- 2) 当該基準において、建設分野の受入企業は、受入計画を作成し、国土交通大臣による審査・認定を受けることを求める
- 3) 受入計画の認定基準
 - ①受入企業は建設業法第3条の許可を受けていること
 - ②受入企業及び1号特定技能外国人の建設キャリアアップシステムへの登録
 - ③特定技能外国人受入事業実施法人(JAC)への加入及び当該法人が策定する行動規範の遵守
 - ④特定技能外国人の報酬額が同等の技能を有する日本人と同等額以上、安定的な賃金支払い、技能習熟に応じた昇給
 - ⑤賃金等の契約上の重要事項の書面での事前説明(外国人が十分に理解できる言語)
 - ⑥1号特定技能外国人に対し、受入れ後、国土交通大臣が指定する講習または研修を受講させること
 - ⑦国又は適正就労監理機関(FITS)による受入計画の適正な履行に係る巡回指導の受入れ等

5 その他 外国人材とつくる建設未来賞について

- 「外国人材とつくる建設未来賞（大臣表彰）」は、令和5年に創設され、今回で2回目。
- 技能等が優秀な特定技能外国人や、外国人材育成等への取組が顕著な企業等を表彰することで、我が国における外国人材との共生社会の実現を図ることを目的とする。
- 第2回「外国人材とつくる建設未来賞」表彰式を令和6年12月24日（火）に開催。

【3つの賞の概要及び受賞者】

①優秀外国人建設技能者賞

○特定技能制度のもと、建設技能・コミュニケーションスキルの習得に関する取組が顕著であり、建設現場での指導的役割を目指す外国人技能者を表彰

【受賞者名】 【国籍】 【企業名】 【企業所在地】

ヴー ディン フー	ベトナム	(株)中鉄	大阪府
グエン ザー ダイ	ベトナム	(株)門井工業	神奈川県
サイ ギョクキョウ	中国	(株)川元工務店	埼玉県
トゥ アウン	ミャンマー	(株)兼藤	東京都
ハク ジュケイ	中国	(株)川元工務店	埼玉県
ファミ パン ナン	ベトナム	(有)小林興業	埼玉県

②外国人材育成賞

○継続的かつ効果的に外国人建設技能者の技能及び就労環境向上に取り組んでいる企業等を表彰

【受賞企業名】 【企業所在地】

株式会社高知丸高	高知県
株式会社タカラ	東京都
株式会社手塚工務店	東京都
日本興志株式会社	東京都
矢島鉄筋工業株式会社	東京都

③事業展開賞

○外国人材との接点を契機に新たな事業を展開している企業等を表彰

【受賞企業名】 【企業所在地】

株式会社高知丸高	高知県
株式会社森建設	鹿児島県

【審査委員長特別賞について】

外国人建設技能者を直接に雇用していない団体でも、外国人材の育成において関連企業と連携した取組を行っていることから、これら優秀な取組を広く周知するため審査委員長特別賞として表彰。

- ・ 一般財団法人戸田みらい基金(戸田建設株式会社)
- ・ 株式会社竹中工務店 及び 竹和会

参考資料 学生及び大学関係者アンケート結果

参加者数	ホーチミン会場79人、ハノイ会場97人の計176人
アンケート回答数	ハノイ38人、ホーチミン43人の計81人（回答率46.0%）

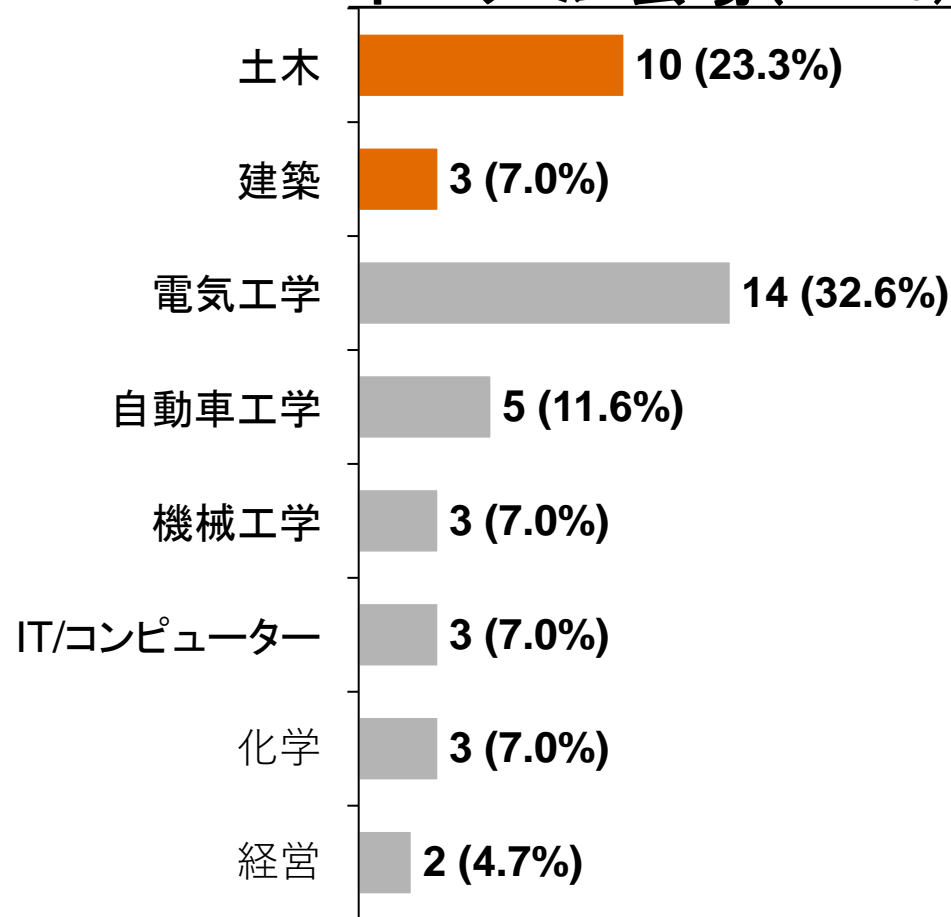
アンケート回答者の属性

性別	男性67人、女性14人、
学校	ホーチミン工科大 42人、ハノイ土木大 37人、 ホーチミン市建築大学1人、ハノイ交通運輸大学 1人
学歴	学士（Bachelor）80人、無回答1人
就業経験	あり16人、なし65人
日本語能力	会話レベル6人、なし75人
JLPT	N3：1人、N5：1人、なし：75人

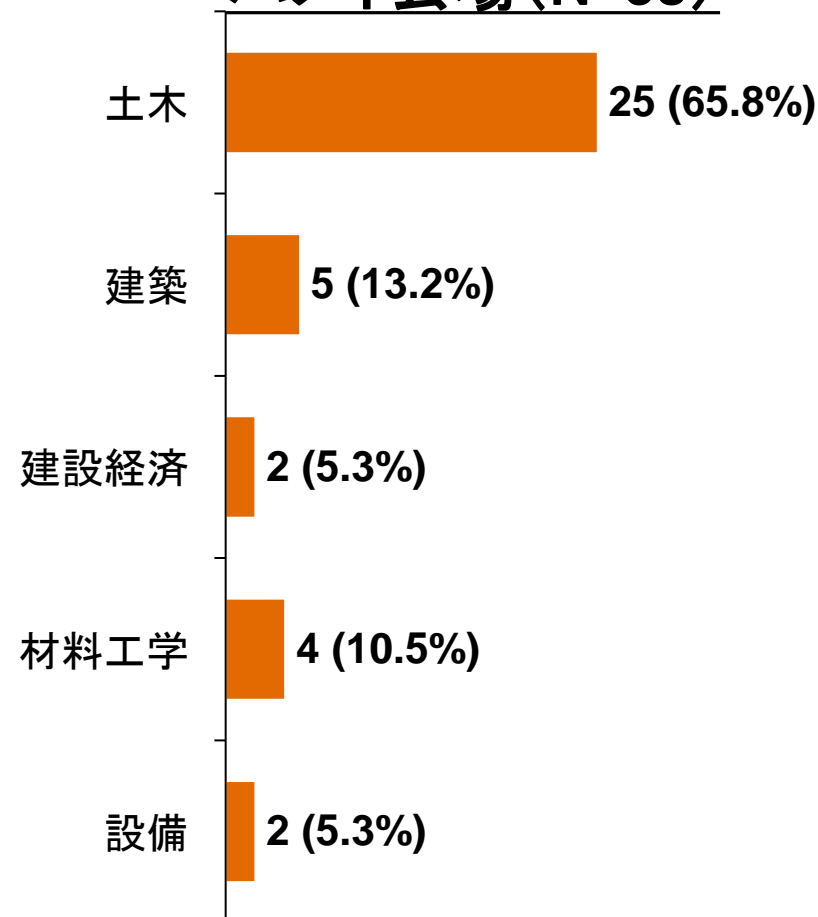
大学での専攻について、建設系（土木・建築等）の学生は、ホーチミン会場では30.3%。ハノイ会場では全員が建設系の専攻。

大学での専攻

ホーチミン会場 (N=43)

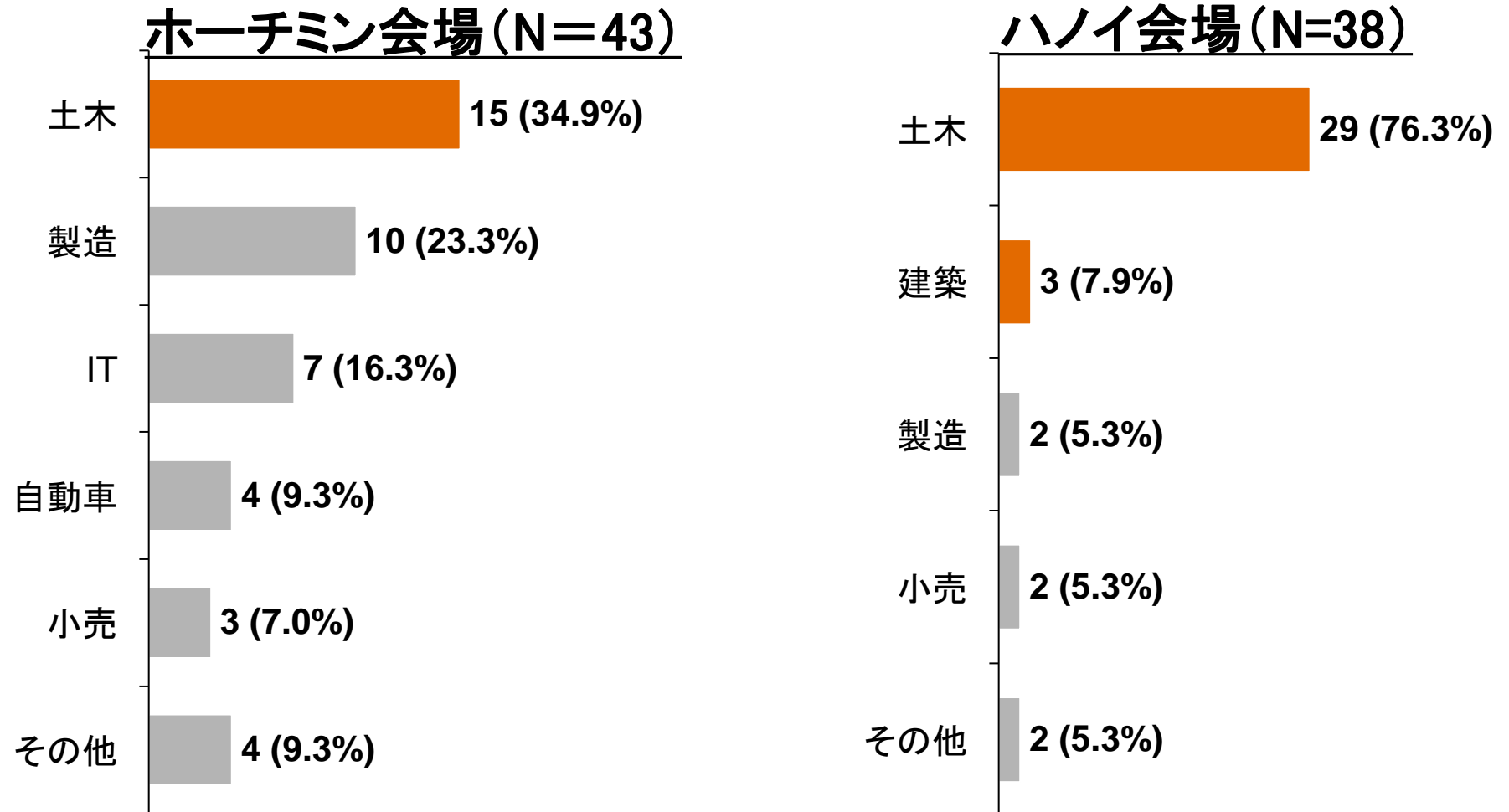


ハノイ会場 (N=38)



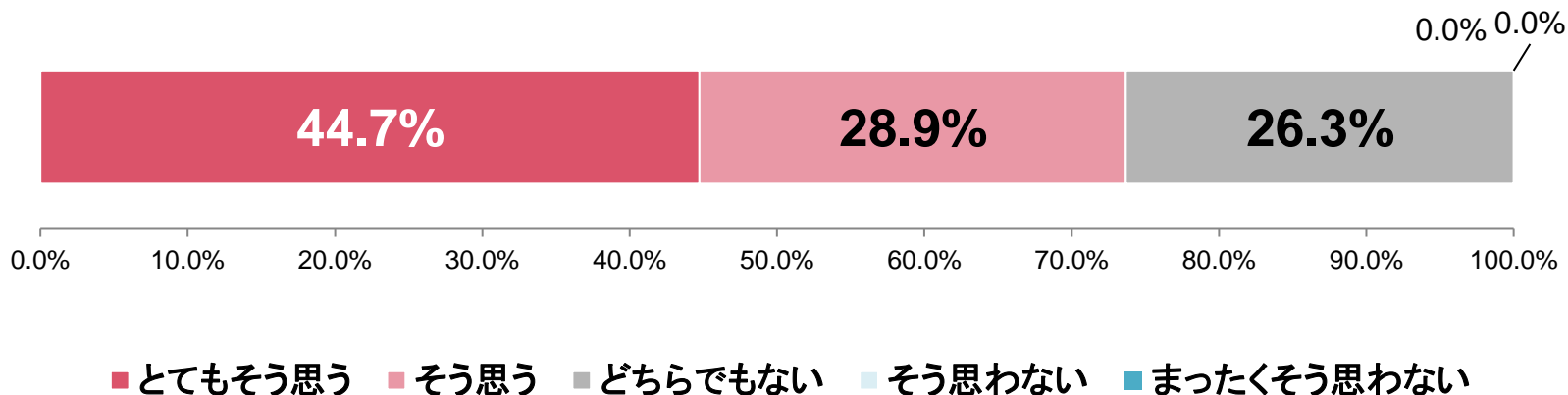
希望する業種について、ホーチミン会場では土木が34.9%。ハノイ会場では土木が76.3%、建築が7.9%

希望する業種

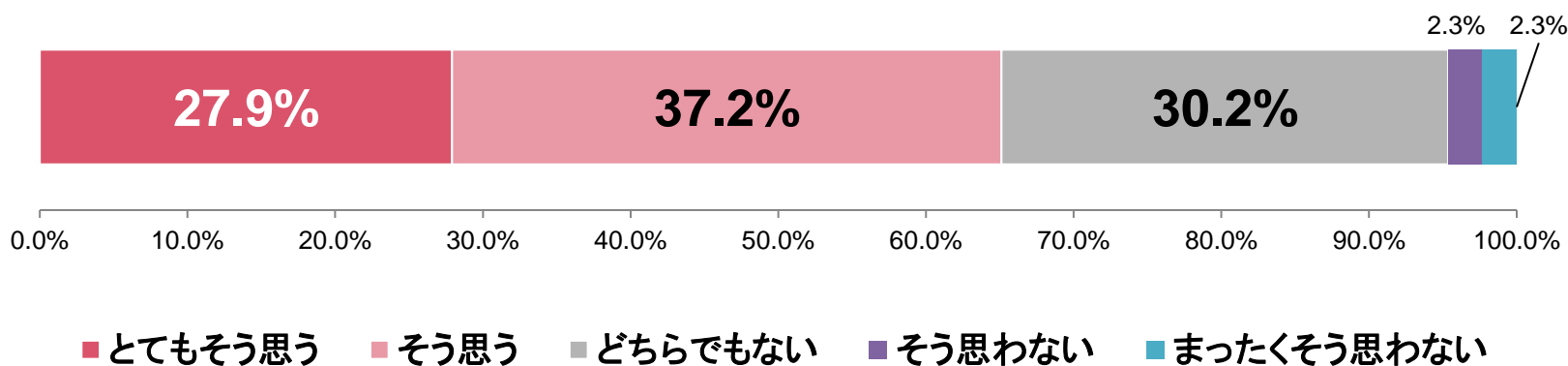


海外での就職の希望度合いについて、ホーチミン会場では、希望するがあわせて73.6%。
ハノイ会場では希望するがあわせて65.1%

海外での就職の希望度合い ホーチミン会場(N=43)



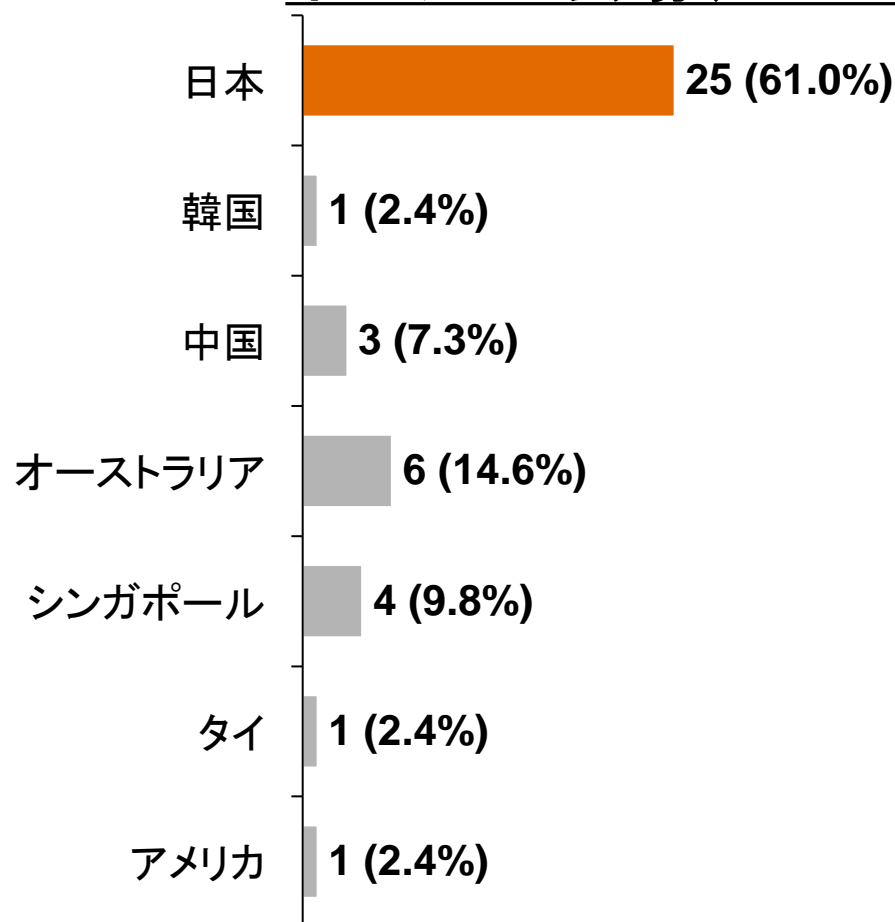
海外での就職の希望度合い ハノイ会場(N=38)



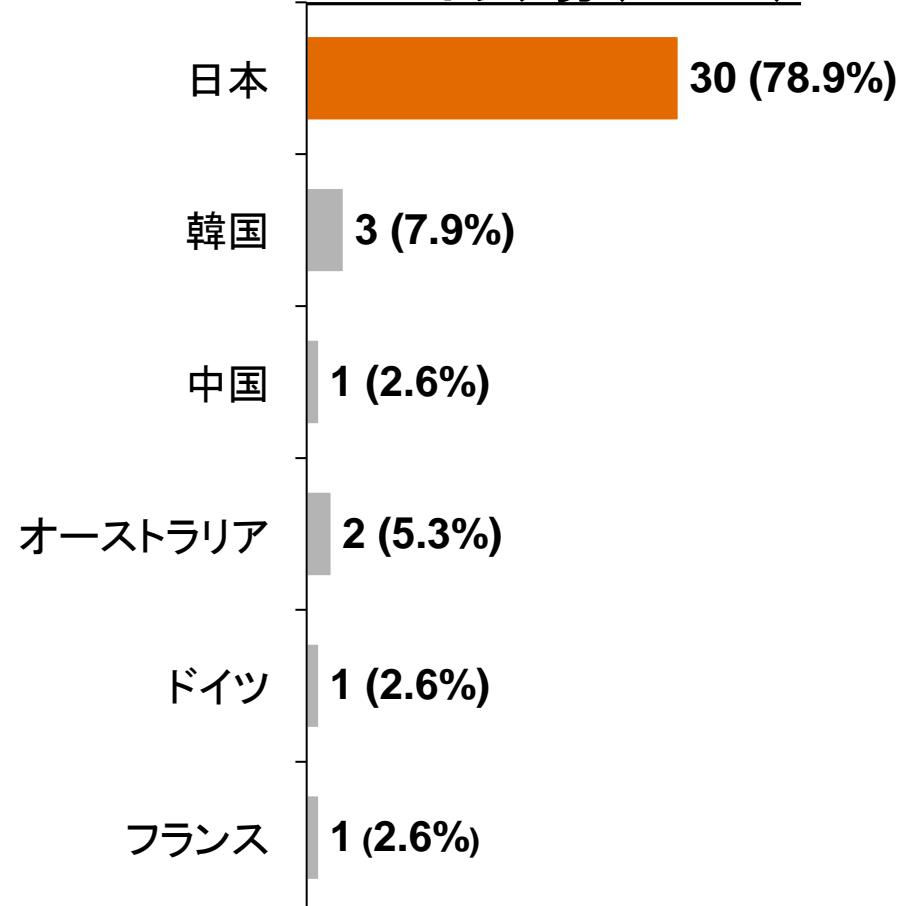
ベトナム以外で希望する就職先について、ホーチミン会場では「日本」が61.0%、ハノイ会場では「日本」が78.9%

ベトナム以外で希望する就職先

ホーチミン会場 (N=41)

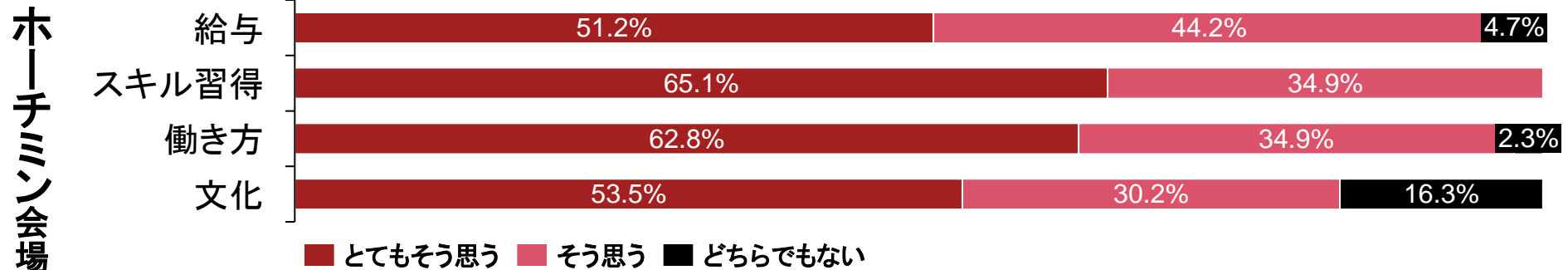


ハノイ会場 (N=38)



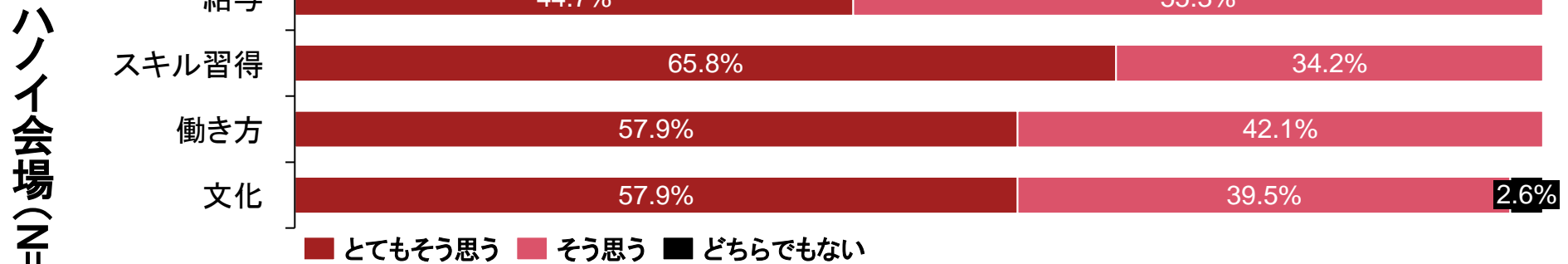
就職先で重視することについて、ホーチミン会場、ハノイ会場ともに「スキル習得」は60%以上が「とてもそう思う」と回答

就職先で重視すること



自由回答

- キャリアパス、昇進の機会、労働環境、同僚のキャラクターなど

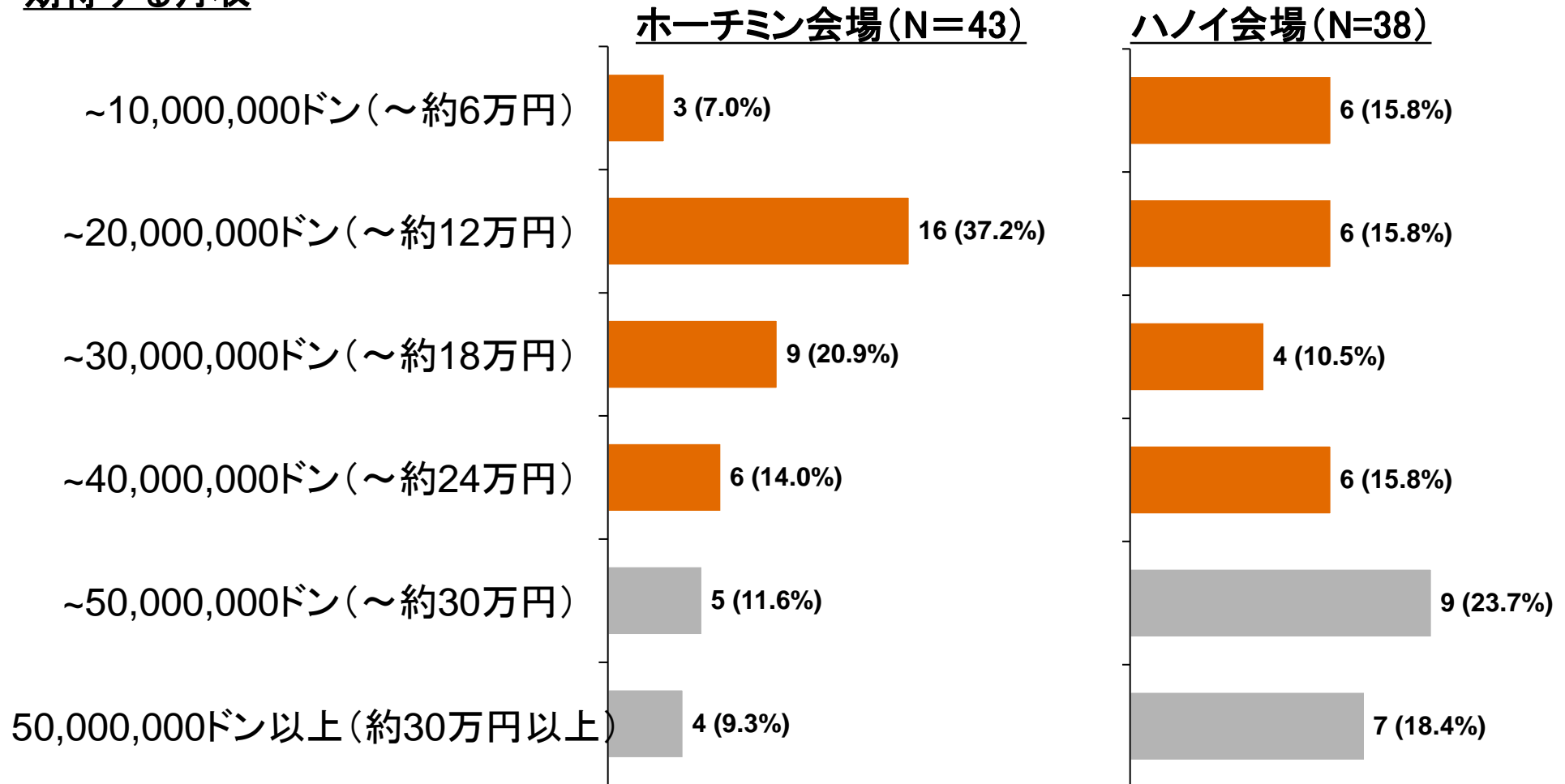


自由回答

- 昇進の機会、生活環境など

就職の際に期待する月収について、約24万円以下とする回答は、ホーチミン会場では約79,1%、ハノイ会場では約57.9%

期待する月収



設問		回答内容
情報基本	基本情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーチミン工科大学(学部)3年生。建設学部 ・男性
・就職活動 ・学習内容	就職活動の時期、 就職活動の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の時期にインターンシップ参加(3か月程度、6月～9月に実施) ・就職活動は卒業の2～3か月前に本格化
就職先の 考え方	希望する業種	<ul style="list-style-type: none"> ・建設関連のマネジメント業務
	海外での就職希望 ・希望する国 ・重視すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム国内3割、海外7割くらいの希望度 ・日本は建設の水準が高く、給料もよい。日本文化にも関心がある ・韓国はベトナム企業との連携が多い印象 ・日本語は関心がある学生は学内/学外で学ぶことができるものの、建設系の学生が学ぶことは少ない。外国語では英語が重視されている
フィードバック	日本企業について	<ul style="list-style-type: none"> ・建設の施工管理に関心あり ・専攻内容と近く、ベトナムにも拠点がある企業の印象が良かった

設問		回答内容
基本情報	基本情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ハノイ土木大学のエンジニア課程(学部卒業+1~1.5年の課程) ・土木工学部 ・男性
・学習内容 ・就職活動	就職活動の時期、就職活動の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学部生の中にインターンシップを実施 ・学部卒業後は施工分野の企業にで学業と並行して勤務開始
就職先の考え方	海外での就職希望 ・希望する国 ・重視すること	<ul style="list-style-type: none"> ・希望度合いはベトナム70%、海外30% ・ベトナム国内に家族もあり、国内で働くことで国にも貢献できる ・海外企業の場合、キャリアパス、給料、ベトナム法人の有無、1~2週間程度帰国できるか等が大事 ・国内企業より日本企業の方が給料がよい ・給与の金額感として、ベトナムで働く場合は2000万ドン~2500万ドン(約12万円~)、日本の場合は3000万ドン~3500万ドン(約18万円~)を希望。 ・キャリアアップとともに昇給を希望 ・希望する就職先は中国、日本、韓国の順。中国には建設業界が発展している印象がある
ジョブフェア	日本企業について	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に企業情報を確認し、自身の専攻と合致する企業の話聞いた ・ジョブフェア前に知っている日本の建設企業は無かった。 ・日本企業への就職イメージは具体的でなく、大学内に日本語コースがあることは知っているものの、日本語を学んだことはない

設問		回答内容
報 基本情	基本情報	<ul style="list-style-type: none"> • キャリアセンターでは就職情報の提供、ジョブフェアの開催、企業視察の機会提供を実施している
・ 就職活動 学習内容	ジョブフェア等	<ul style="list-style-type: none"> • 建設系の学生向けのジョブフェアのほか、全学での大規模なジョブフェアも開催
	その他	<ul style="list-style-type: none"> • インターンシップは6月～8月頃の実施が多い
就職先の 考え方	日本企業/ベトナム国内企業のアプローチ状況、必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> • ベトナム国内にも大手の建設企業があり、海外での就職希望度合いは落ち着きつつある • 海外で就職する場合は、日本・韓国・シンガポールが多い • 日本で就職する場合は日本語がネックになる。建設学部の中には日本語の授業がない • 日本語の授業や日本の建設業界での業務内容を教える機会を、企業の支援等で提供できるよい • 別の学部では日本語を勉強したうえで日本でインターンを行う取組あり

設問		回答内容
報 基本情 報	基本情報	<ul style="list-style-type: none"> • 学校全体の学生数は2万人程度 • 毎年、4000人程が入学
	就職活動 学習内容 ・ ジョブフェア等	<ul style="list-style-type: none"> • ジョブフェアの実施時期は、入学/卒業時期の関係から1～3月頃か8～10月頃がよい • 卒業式にあわせて20社～30社程度のジョブフェアを開催 • 月に1～2回程度、各社個別での就職セミナーも開催される
	その他	<ul style="list-style-type: none"> • 卒業生の90%が国内・建設関係の分野で就職 • ベトナム企業以外には、日本・韓国・中国・フランスなどの企業あり • 日系企業の場合、図面作成のアウトソーシングが多い • 学生の第一希望はベトナムの大手企業、次いでベトナムの他の国内企業や外資系企業が続く • 日越技術学院(日本語センター)あり